

は必須であるが、吾人は茲には唯米に關する政策を掲ぐるに止める。
 凡そ、米に關する根本的解決政策は、之を四綱に約することを得、更に所應方策を併せ記さう。

第一。供給増進政策。

米の供給を増進する政策は、解決の積極策であつて、現在の米需要に對し、又將來の需要増進を見越して、充分に供給の實を擧げ、或は所要以上に國內に於いて生産に努め、又は國外より輸入して供給を潤澤にする政策である。之が實は根本策である。乃ち、供給増進所應政策の項目は左の如くである。

其一。國內的増進策。

- (一) 米の品種改良。
- (二) 現在耕地の整理及び改良。
- (三) 現在耕地の利用増加(二毛作の如き)。
- (四) 米耕地の開墾。
- (五) 農業知識の普及發達、技術及び用具の改良。
- (六) 農事經濟の發達。

(七) 其他、農業一般に關する制度機關の設置及び改善。
 其二。輸入増進策。

- (一) 朝鮮及び臺灣の米生産を増加し、餘剩米を豊富ならしめ移入に便する事。
- (二) 外米輸入に關する萬全策を恒に講じ置くこと。
- (三) 米輸入關稅の臨機撤廢又は輕減を行ふこと。

第二。需要調節政策。

米の消費需要を必要の程度に止めるやうに節約せしめる政策は、解決の積極策であつて、時に必要以上の消費、有害の消費は、之を一時制限又は禁止する政策である。乃ち、需要調節所應政策は左の如くである。

- (一) 飯米以外の消費制限。
- (二) 米の搗減歩合を減小せしめること。
- (三) 雜穀との混合食の奨励。
- (四) 代用食の奨励。
- (五) 外米の利用及混用。
- (六) 過食の習慣改善。

(七)米の貯蔵運搬に際しての減耗を防止すること。

第三。配給調節政策。

生産と消費、供給と需要、此兩者が圓滑に調和さるゝと否とは、食糧が一般に公正に行き亘れるや否やに依存する。されば、食糧が普遍潤澤敏速に配給さるゝ政策は必要である。

乃ち配給調節所應政策は左の如くである。

(一)米輸送の改善。

(二)米穀取引所の整備。

(三)米の主要消費地に、中央市場公設市場を設置して、生産者と需要者との直接賣買の途を開くこと。

(四)米の管理又は專賣の實施。

(五)米貯蔵を行ひ、又貯蔵機關を完備にすること。

第四。價格調節政策。

食糧の適當なる價格、即ち、生産者にとりても、亦消費者にとつても、最も公正相當なる價格を以て、賣買され取引せらるゝやうにする政策であつて、價格の異常な

る高低を抑制し、變動の幅を可成的小にするに努めるものである。

乃ち、米價調節政策は左の如くである。

(一)米穀取引所に於いて思惑賣買等による暴騰暴落を可及的ならしめる事。

(二)賣惜しみ、買占、賣崩しに據る米價の大變動に乗じ、暴利を計るものを取り締ること。

(三)米の統計及び數量調査を完全にし、生産の増減に會して、徐に對策を講じ得るやうに平素準備し置くこと。

(四)一般物價政策(通貨及び金融政策等)に災されざるやうに努めること。

(五)需要との關係に於いて平行的に、米生産額を毎年平均ならしむるやうに計ること。

(六)農業倉庫、常平倉による價價變動の調節。

(七)米價公定。

(八)輸出入による米價調節。

即ち、我國に於ける米の政策は、以上の四策にして、之を臨機併用して初めて、食糧政策の效果は擧るのである。

九 結 論

凡そ、我邦に於ける人口政策は右の如くに五段の開展をなすものである。人口政策は先づ、帝國國是たる強國主義と視合して其體貌は成り、人口増加の可成的多量にして良質なるを希求する良質多量主義、次に増加人口の處分策として國內的には農本商工主義、國外的には移民政策よりも、寧ろ殖民政策を上乘とし、更に増加人口に對應する食糧政策の如何を明かにしたのである。而して、人口政策と食糧政策とは相互に聯關するものであるから、兩者の適切なる提携に據つて、吾人は我帝國の最も平和なる最も光輝ある將來の發展を希望して已まないものである。

—(完)—

第 三十 卷
人 口 問 題

大正九年九月廿五日印刷
大正九年九月卅日發行

非賣品

不
許
製
版



編輯人	日本社會學院調查部
發行人	右代表者 杵淵義房 東京市牛込區新大塚四丁目
印刷者	鷺尾 東京市神田區三番町廿八番地
印刷所	谷口熊之助 東京市牛込區早稲田區三六二番地
	冬夏社 東京市牛込區早稲田區三六二番地
發行所	株式會社冬夏社 東京市神田區三番町廿八番地 電話九段一五二二番 郵便東京四五四六番

375
49

終

